

解説

推進工法関連資材の 海外生産による海外展開戦略

さいとう たけやす
齊藤 豪康

コーワ化成(株)
ライフライン第一グループ次長

1 はじめに

当社はパイプのジョイント部分に使われるゴム輪を扱っている会社で、上水道用、下水道用、農水用、電力用など様々な管種のゴム輪を扱ってきました。ゴム輪の材質は、「JIS K6353水道用ゴム」に規定されており、下水道用、農水用、電力用もこの規格に準拠しています。

そのなかでもヒューム管向けの推進管ゴム輪については、開発の初期段階から関与してきています。また、日本下水道協会規格下水道推進工法用鉄筋コンクリート管のゴム輪の規格化にも取り組んできました。

推進工法は1980年代には首都圏をはじめとした都市部における管路建設の主流となり、開削工法から推進工法への転換と共に、ゴム輪に求められる期待水準も上がりました。

特に、パイプとゴムの接着性能が重視され、ゴム輪の出来栄が工事における施工性や機能としての水密性

をも左右する重要部品になってきたと考えています。また、1995年に「下水道推進工法用硬質塩化ビニル管 JSWAS K-6」が規格化され、SUSカラー工法もゴム輪を用いる工法になっており、当社の活動範囲も広がってきています。

2 海外展開

日本の社会資本整備は建設からメンテナンスのステージに達し、管きよの新規整備が年々減少してきています。このような背景の中で当社も時代の流れに沿うかたちで新たなビジネスチャンスを求めて海外への展開を試みました。

その結果、日本向け商品の生産委託では中国、韓国、マレーシアにある海外企業との強い連携体制を構築することができました。一方、日本国内向けへの販売だけでなく現地向けの販売展開も進めてきましたが、こちらは期待通りには進みませんでした。とりわけ中国市場への参入は思った以上に困難が多く、満足な成果を得ることができませんでした。

海外の現場では、水密性などの機能面以上に価格重視のマーケット環境であり、日本での運用・導入実績を基に営業しても、価格が高いことを理由に販売は困難を極め、海外販路拡大の目的が果たせぬ状況が続いていました。

表-1 JIS K 6353の用途一覧

種類	用途例
I類	ダクタイル鋳鉄管、鉄管、硬質塩化ビニル管、プレストレスコンクリート管
II類	仕切弁のグランド部に用いるゴムおよびパタフライ弁の便座用ゴム
III類	フランジ面に用いる板状ゴム、空気弁に用いる円錐状ゴム、鋳鉄管プッシュオン継手用ゴム輪ヒール部
IV類	コンクリート管

3 ベトナム進出

2015年にグローバルワークス(株)の新田社長に誘われてODA案件における下水道管用ジョイントパッキンを供給させて頂いたことがベトナム進出への最初のきっかけとなり、その後、同社の現地工場見学を含め諸事にわたり大変お世話になっています。

ベトナム南部の商業都市であるホーチミンのタンソニャット国際空港に初めて降り立った時の熱気の強さに衝撃を隠せなかったことを思い出します。気温や湿度の高さもさることながら、それよりもむしろ、溢れんばかりの人々の活気に驚きました。今後の発展の予感を五感に感じるとともに、ベトナムという国に計り知れぬ可能性を感じました。



写真-1 熱気であふれるベトナム市街地

そして世界的にトップ水準の技術力をもつ日本の推進管製造技術を、推進工法の実績がほとんどない当地に広めていきたいという熱い思いが胸にこみあげてきました。

その後、2016年11月よりODA案件の第2期ホーチミン市水環境改良プロジェクト向けにジョイントパッキンを日本で生産し輸出供給する事業を開始しました。

2018年には弊社もグループ企業との提携の下にベトナムに自社工場を設立することが決まり、2019年4月にはベトナム北部のビンフック省にKOWA GLOBAL社として開所し、ベトナム市場における供給体制を整えることができました。さらに、2020年4月にはより海外展開戦略を確実に進めていくために(一社)日本非開削技術協会(会長：森田弘昭・日本大学教授)に入会しました。



写真-2 KOWA GLOBAL工場

4 ベトナム進出時の苦労

海外企業への製造委託とその途上管理については当社もノウハウを蓄積しておりましたが、自社での海外進出は苦難の連続でした。特に、商慣習の違いには苦労しました。ベトナムの商慣習における意思決定は想像を超えて早く、その一方で決定後の実務面では、縦割り行政の弊害もあってか小さなことも、大きなことも、遅々として進まない環境に戸惑いながら手探りで進めて参りました。

また、人材面における基本的な意思疎通は日本人のそれと大いに馴染むことが多いのですが、個々人のキャリア転換や転職に対するモチベーションが高く、製造工場の現場職員が定着するまでに多くの時間と資本を費やしてきたのも事実です。

昨今の新型コロナウイルス感染症の影響でベトナム経済も一時的な後退を見せておりますが、世界的にマイナス成長国が多い状況の中にあっても、ベトナムは経済成長率2%以上を確保しており、ポストコロナ下における発展に向けた潜在的爆発力は計り知れないものがあると感じています。新型コロナウイルス対策においても、ウイルスの完全封じ込めに成功しており、世界において手本となるパフォーマンスを発揮していることも学ぶべき点だと考えています。

5 ベトナムでのジョイントパッキン事情

日本では、開削工法、推進工法共にジョイント部にはパッキンを使用する仕様が多く、水道管同士の結合部における水密性能を確保するためにはゴムパッキンが重